

日本薬学会 第125年会 ランチョンセミナー

- 日時 平成17年3月30日(水) 12:30~13:30
- 場所 東京ビックサイト 6階 (F会場)

<サプリメントと薬の相互作用 ①>

~開局薬剤師の立場から~

座長

橋詰直孝先生

東邦大学医学部医学科 教授

現在、サプリメントを摂取する人は急激に増加しており、それに伴って、サプリメントと医薬品を併用する機会も増加している。併用による相互作用が、時には臨床で大きな問題となることもあるため、薬剤師はしっかりとした情報提供を行うことが求められる。

本講演では、「サプリメントと薬の相互作用」と題して、サプリメントの適正な選択方法や医薬品と併用する際の注意点について、サプリメントに造詣の深い先生方よりお話を頂く。

医薬情報研究所／(株)エス・アイ・シー

医薬情報部門責任者 堀 美智子先生

高カロリー輸液や経管栄養などの普及は、微量栄養素の不足から来る様々な問題点を浮き彫りにし始めた。以前から亜鉛の不足に起因するのではと、言われている副作用としての味覚障害は、亜鉛と薬剤のキレート形成が指摘されている。しかし、亜鉛の不足は決して味覚に関するものだけではなく、褥瘡の治癒の遅れなど様々な問題に関係している可能性があり、不足する栄養素をサプリメント等で補う必要性がある。そこで、特定の栄養素の補給の目的で使用される栄養機能食品としてのサプリメントの活用が必要となる。もちろん栄養素のサプリメントでの補給は、薬との相互作用にも関係しその摂取にあたっては十分な注意が必要である。

さらに、CMなどでよく目にする特定保健用食品は、血圧や血糖値が気になるといったように、生体機能への影響を期待して使用されるものであることから、患者がこれらについて正しい知識を持たないと、血圧の高い人が利用すると良い食品をとっているのと、薬の服用拒否につながったり、あるいは薬との併用から有害な事象が発生する可能性がある。

また、サプリメントの成分が疾病に影響を与えることもあり注意が必要となる場合も多い。例えばC型肝炎のように鉄分の摂取を制限されている患者の場合、肝臓に良いといわれているサプリメントにも鉄を多く含む製品も多く注意が必要となる。そこで疾患別にサプリメント摂取時の注意点を、相互作用と疾病への影響について薬局店頭での経験もまじえて紹介する。

共催

日本薬学会第125年会

株式会社ファンケル